校長先生の初恋物語

第3話　学級委員は誰だ

学級委員といったら、クラスのリーダーです。リーダーと言ったら、足長君に決定です。足長君以外、考えられません。足長君も、当然自分がなるものだと思っていて、

「ぼくがこのクラスの学級委員になったら、このクラスも安心だね。」
と、前髪をかき上げ、キザなポーズをとっていました。何もかもパーフェクト、ちょっときざったらしいところはいやですが、足長君だったら、このクラスをまとめてくれるでしょう。でも、ダンプさんが言い出したことは、とんでもないことでした。
「先生、聞いてください。学級委員は、とっくんがいいと思います。」
教室がざわつきました。
「えーっ、どうしてーっ。」
「ありえないよねぇ。」
「足長君でいいのに。」
と、みんなが大声で反論しました。さらに、クラスのみんなが、とっくんの方を見て、にらみつけてきました。別にとっくんが悪いわけではないのに、みんなの冷ややかな視線を浴びて、とっくんは小さな体をさらに小さくして、困ってしまいました。
担任のにょろひげ先生も困っていました。すんなり足長君が学級委員になると思っていたところに、ダンプさんがよけいなこと言うから。

ダンプさんの言葉に、するどく反応したのは足長君でした。
「ちょっと、ダンプさん。勝手に決めないでほしいなぁ。とっくんみたいな気が弱い人に、学級委員がつとまるわけないじゃん。ぼくが学級委員をやったほうが、このクラスは平和になると思うけどなぁ。ねぇ、みんなはどう思いますか。」
その言葉に、他の全員が拍手をしながら大きな声で、
「イェーイ、賛成でーす。」
と大騒ぎ。

でも、ダンプさんは負けません。ダンプさんはがばっと立ち上がると、みんなにむかって演説を始めました。
「それでは、とっくんVS足長君、どっちが学級委員にふさわしいか、選挙をしませんか。選挙だったら不公平ではないと思います。にょろひげ先生、選挙をやってください。選挙で足長君ととっくんのどちらがいいか、はっきりさせましょう。」

ダンプさんの提案に、みんな大喜び。だって結果は分かり切っているからです。クラスの全員が足長君に投票するに決まってます。ダンプさんは、1票も入らないとっくんをんなの前で、笑いものにしたいだけなのです。あまりにもひどすぎます。とっくんは、目に涙をいっぱいためながらみんなの大歓声を聞いていました。

つづく

何の意味もない、みんなの笑いものになるだけの悲しい選挙が始まってしまいます。
しかし、この選挙、意外なことが起こるのです。クラスのアイドル足長君vs弱虫とっくんの選挙、その意外な結果とは。
とっくんに何が起こるのか。ダンプさんのいじめはエスカレートするのか。

次回予告　　涙の選挙